ふたたび琉球弧が戦場に！

ウクライナの現実をどう受けとめるか？

琉球弧の島々に次々と自衛隊配備

開設された陸自宮古島駐屯地

※　陸地（島）の面積は、大きく表示しています。

講演　「南西諸島ミサイル要塞化」が沖縄にもたらす危険と国民的無関心

講師　川端　俊一さん　（元朝日新聞記者）

報告①　1959年宮森小ジェット機墜落事件について・・・牛島貞満
報告②　辺野古現地の闘い・・・水沢澄江
ビデオメッセージ：山城博治（ノーモア沖縄戦　命どぅ宝の会）

ロシア軍による残虐なウクライナへの戦争の現実を目の当たりにして、核兵器を持っていれば攻められなかった、日本も軍事力をさらに強化しよう、と声高に言う人がいます。しかしウクライナの現実は、人々のいのちを守るには戦争を絶対起こしてはならないことを示しています。琉球弧で進むミサイル要塞化はそこに住む人々をまきこむ戦争を想定しています。今なすべきは東アジアの軍事的緊張を緩和していくことです。63年前の宮森小米軍機墜落事件も、東アジアの対立が深まった時に起こったことも忘れてはなりません。

《沖縄のつどい2022》６月１１日（土）

開演１４：００～１７：００　（13：30開場・Zoom開始）

会場：明治学院大学白金キャンパス本館3 階　1301教室

ZOOMでの参加もできます。（コロナ感染状況によってはZOOMのみ実施）

会場定員
１５０名

資料代：会場・ZOOM参加　共に500円　（学生・明治学院大関係者無料）　申し込み方法は裏面に記載

主催 沖縄のつどい実行委員会　（宮森・630 を伝える会、ジュゴン保護キャンペーンセンター、公益財団法人原爆の図丸木美術館、ピース・ニュース、平和を実現するキリスト者ネット）
共催　明治学院大学国際平和研究所　　賛同　公益財団法人東京ＹＷＣＡ、沖縄戦首都圏の会、沖縄平和ネットワーク首都圏の会

基地がある限り、安全な日はこない！

沖縄・宮森小学校 米軍ジェット機墜落事件

（キーストン提供）

子どもたちがいる教室に、米軍機が突っ込んでくる、そんなことをあなたは想像できますか？

63年前の1959年6月30日、嘉手納基地を発進した米軍のジェット戦闘機は、沖縄県うるま市（旧石川市）の住宅地に墜落炎上し、機体の一部が宮森小学校の教室に突っ込みました。死者18名（児童11名、住民6名、さらに児童の1名が大学入学後に後遺症で亡くなる）、負傷者212名（児童156名、職員2名、住民54名）、小学校、公民館、民家25棟が全半焼。――米軍による最大の基地被害の事件です。普天間や嘉手納をはじめとする基地と隣り合わせの生活が、いかに危険なのかをこの事件が教えてくれます。沖縄の「本土復帰」から32年後、2004年沖縄国際大学米軍ヘリ墜落の際もまるで米軍政下時と同じように、米軍による現場の封鎖が行われました。最近も普天間基地所属のオスプレイが墜落したり、米軍機の部品が保育園や小学校に落とされたりしています。沖縄に限ったことではありません。首都圏でもオスプレイの離着陸や羽村市の中学校の校庭へのパラシュート落下などがあり、大きな事故が起こる可能性は、日本中いつでもどこでもあるのです。

《川端俊一氏プロフィール》

1960年北海道生まれ。85年に朝日新聞社入社。長崎支局、西部本社社会部などを経て、94年、交流人事で沖縄タイムス社へ。95年、朝日新聞那覇支局員としてアメリカ兵による「少女暴行事件」を取材。97年から東京本社社会部で基地問題、防衛問題などを担当。2020年に選択定年で退職。著書に『沖縄・憲法の及ばぬ島で』共著書に『沖縄報告―サミット前後』『新聞と戦争』『闘う東北』など。

「辺野古　台船に積み上げられた埋め立て土砂の前で抗議するカヌー隊」

申し込み方法 （以下のmailアドレス宛に下記の事項を明記して申し込んでください）

参加費（資料代）：500円（学生は無料）

①お名前　②ご住所　③会場参加／ZOOM参加　④学生は学校名明記

申し込みMailアドレス：okinawa.20220611@gmail.com

連絡先：090-1837-4579（松本）

申し込まれた方に資料代振込先をメールでお知らせします。またコロナ感染状況によっては大学会場の参加を中止し、全員がオンライン参加となる場合もあります。その際は申込者全員にメールでお知らせします。

◀ 会場 「白金台駅」2番出口・「白金高輪駅」1番出口・「高輪台駅」A2出口　徒歩7分